

令和6年5月1日

立教187年

5月号
第620号



発行所

天理教宇仁大教会
〒677-0015 西脇市西脇770-4
電話 0795(22)4066 番
FAX 0795(22)4072 番
unigrandchurch@yahoo.co.jp

縦の伝道講習会 5月24日(金) ※詳細は5ページに記載

おかえり講話 5月26日(日) ※詳細は5ページに記載



少年会宇仁団總會 3月31日

散歩道

金子みすゞという童話詩人の蜂と神さま
まと言う詩をご存知でしょうか

蜂はお花のなかに

お花はお庭のなかに

お庭は土塀のなかに

土塀は町のなかに

町は日本のなかに

日本は世界のなかに

世界は神さまのなかに

そうして そうして 神様は
小ぢやかな蜂のなかに

この詩、共鳴しました

神様は、陽気ぐらしを見て共に楽しもうと思し召されて、人間をお造り下されたと

陽気ぐらしをする為に必要なものは全て与えられていると

そうして、人間は神様の懐住まいをさせてもらっている

十柱の神様のご守護を頂いて

これから独りよがり止めにして共にあることを忘れないようにしよう

楽しむ心、喜ぶ心、感謝の心、ありがたい…

一 理 塚

この春から始まったNHKの朝ドラのタイトルは「虎に翼」。中国の法家・韓非子の言葉で「強い力を持つ者にさらに強さが加わる」という意味を持ち、「鬼に金棒」と同意語だそう。主人公のモデルは女性として初の弁護士・裁判所所長となった三淵嘉子さん。女性には参政権がなく、「女性の幸せは結婚」「女性は結婚すると夫の許可なしでは法的なことが一切行えない無能力者になる」という時代に自ら女性法曹への道を切り開かれた方だそうです。そもそもなぜそこまで女性の権利が制限されていたのかというと、西洋の法律を基にして日本の法律はつくられたからで、そこにはキリスト教の男女観が投影されており、また東洋の仏教や儒教にも男尊女卑に繋がる教えが内包されており、長い間世界中の女性には男性に隷属する者としての扱いを受けてきました。

そのような時代に教祖は、

「女松男松の隔てなし」と、親神様の子供として、また道のよふぼくとして男女の違いはないと断言されました。私はその「隔てなし」というのが、天理教の一番大切なキーワードだと思っけています。もちろん役割や年齢経験等によって順序や区別はあっても、決してそこに貴賤の差はなく、また固定されたものでもなければ、変わらないものでもない。実の親子の関係でさえも「親が子となり子が親となり、恩の報じあいをするのや」と仰せられるように、何度も生まれ変わる中でその役割は入れ替わり、それぞれの立場を体験する中にいろんな事に気づき、心や魂の成人の糧となるのだと思います。

高井直吉先生の懐旧談に、「おやさま程へだてのない、お慈悲の深い方はなかった。どんな人にお会いなされても、少しもへだて心がない。どんな人がお屋敷へ来ても、可愛い我が子供と思うておいでになる。どんな偉い人が来ても、『御苦労さま。』物もらいが来ても、『ご苦

労様。』その態度なり言葉遣いが、少しも変わらない。皆、可愛い我が子と思うておいでになる。それで、どんな人でも皆、一度、教祖にお会いさせてもらうと、教祖の親心に打たれて、一遍に心を入れ替えた。」とあります。私達は教祖とは違いますが、誰に会っても可愛い我が子ではなく兄弟姉妹ですが、親神様・教祖の親心を知る者としての態度や言葉遣いを、どんな立場にあっても心がけたいものです。

教祖は現身を隠される前に、この世界を「ろっくの地に」と宣言されました。上下の別のない平らな世界。そして「いちれつすましてかろるだい」のお手は横に水平に開きます。自らの主張に優劣をつけたがり、勝ち組や負け組等と上下関係を意識し、持つ者と持たざる者の分断と対立がすすむ今の時代の風潮に対して、親神様の十全のご守護と、教祖の世界中の人間を一人残らずたすけたいというお心は、へだてなく注がれ続けているという真実を伝える事が出

来れば、どれだけの人の心が救われることでしょうか。そしてこの度の朝ドラも、すでに虎に翼状態のうちの奥様に新しい武器が加わる事のない事を願いながら、男女の対立を煽る描き方ではなく、未だに根深い女性蔑視の世界からの解放に繋がる物語として一つの役割を果たすものになるのか、楽しみにしたいと思います。

教祖と共に歩む三年千日

大教会布教実動日

『教祖のお供に歩かせて頂く日』

毎月15日 午後1時30分 大教会神殿集合
戸別訪問・振り返り 午後三時三十分 解散

『親神様の神名を世界へ流す日』

毎月24日 午後1時30分頃 大教会神殿集合
神名流し 午後二時 終了

春の学生おぢばがえり 直属アワー

三月二十八日、春の学生おぢばがえりの直属アワーは、天理駅前にて、学生十名、少年会二名、育成四名の十六名で、能登半島地震の募金活動をさせていただきました。親神様、教祖、御霊様を遥拝後、学生には、募金箱や活動要旨のボードを持ってもらい、原稿を読んでももらいました。しかし、やはり人前で原稿を読む事は難しく、躊躇していました。大きな声でなくてもいい、つぶやくだけでいい。とお願ひして、なんとか読んでもらいました。すると早速、募金をしてくださる方が現れ、少しずつ自信がついて、声も大きくなりました。震災という難儀不自由をされている方々に、祈りと、募金のお願ひという具体的な活動を通し、自分達は何も出来ない子供ではない事を知ってもらい、いつか自分達で考え、自発的に動けるようになる事を願っています。学生会の成長を

楽しみに見守ってください。募金額 8321円 は、災害救援ひのきしん隊基金に寄付させていただきます。



少年会宇仁団総会報告

三月三十一日、宇仁大教会におきまして、少年会宇仁団総会が開催され、少年会員八十一名、育成会員百十八名、計百八十名の方がご参加下さいました。五年ぶりに全員がおつとめを着用しておつとめをつとめるといふ事もあり、この日のためにそれぞれ練習を重ねてきました。十時より開式。祭主横山龍さんの手に合わせて礼拝。祭文では日頃元気に過ごさせて頂いている事を親神様にお礼申し上げますと共に、世界の治まりと地震で被災された方々の一日も早いたすかりをお願いしました。続いて座りづとめから前半六下り目まで、各直属ごとに担当した下りのおつとめを、就学前の小さな少年会員も大きな中学生も、一生懸命に賑やかに元気につとめきました。

続く総会式では少年会長様からの御告示を大教会長様に代読して頂き、参加者は真柱様からのメッセージに真剣に耳を傾けて

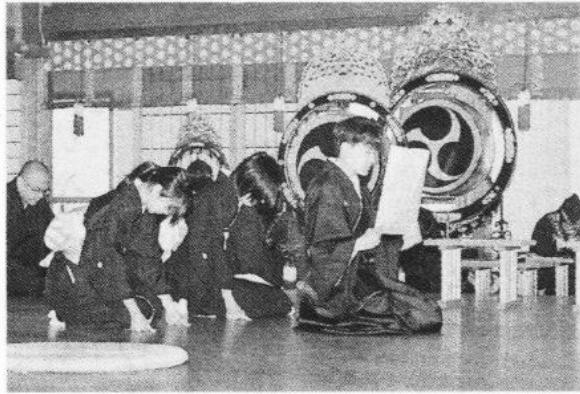
していました。団長挨拶に続いて昨年度の活動報告ビデオを上映。更にはこの春少年会員を卒業する七名の会員に記念品が贈呈され、その後全員で少年会員の誓いの言葉を唱和しました。

記念撮影の後は、お待ちかねのお楽しみ行事。各教会がご用意下さった模擬店の食事やデザート、お菓子でお腹いっぱいになった後は、ウーニーバンドの「星に願いを」の演奏に耳を傾け、抽選会で好きな景品を選びました。その都度子どもらしい表情が見られ、大人も一緒に楽しむ事が出来ました。

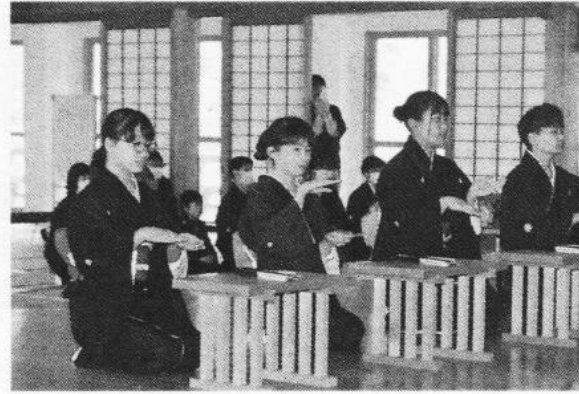
総会開催にあたりまして、お力添え頂きましたすべての皆さま方に改めてお礼申し上げますと共に、今後とも宇仁団の少年会員の育成に共に励ませて頂きたいと思ひます。

また能登半島地震への募金には六九七九円のご寄付を賜り、今後支援に現地へ向かう青年会宇仁分会に託す事とさせて頂きました。ご協力ありがとうございました。

少年会宇仁団団長 原田信一



少年会員による祭文奏上



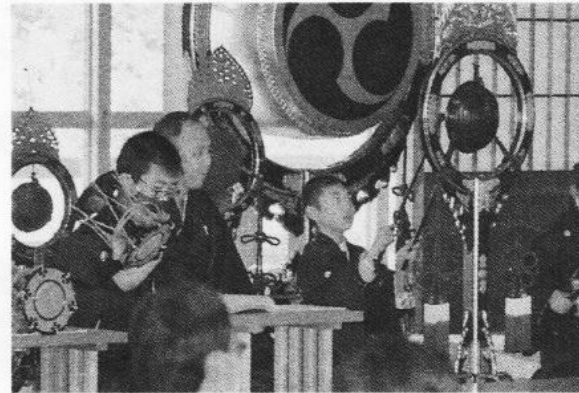
すわりつとめ



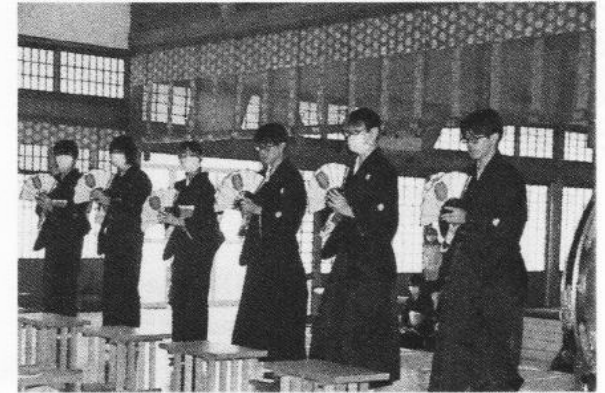
よろづよ八首



一、二下り目 ①



一、二下り目 ②



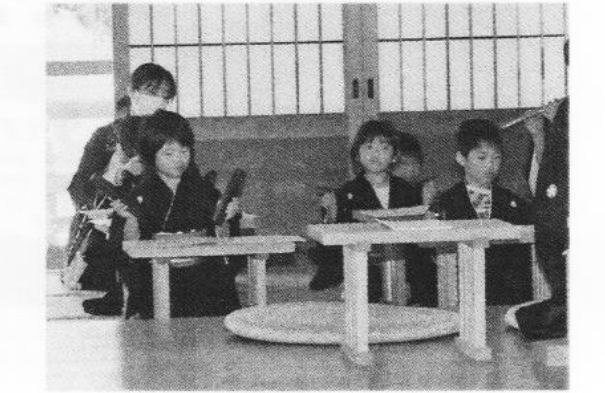
三、四下り目 ①



三、四下り目 ②



五、六下り目 ①



五、六下り目 ②



御告辞（大教会長様代読）



団長挨拶



卒業生に記念品贈呈



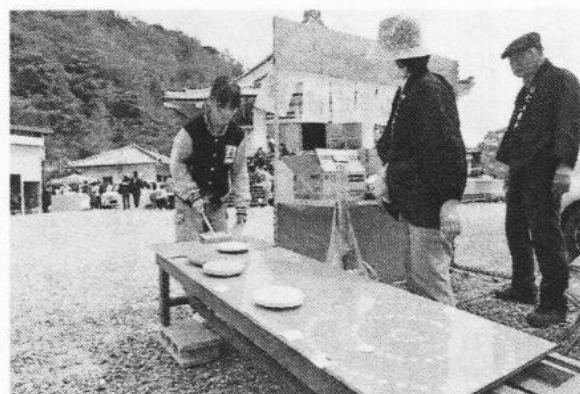
お楽しみ行事（模擬店①）



お楽しみ行事（模擬店②）



お楽しみ行事（模擬店？）



お楽しみ行事（模擬店③）



鼓笛演奏（ウーニーバンド）



お楽しみ大抽選会

模擬店の出店ありがとうございました

豊原分教会 (アイスクリーム)	杉原谷分教会 (お好み焼き)	水嶋分教会 (ジュース)
鍛冶屋分教会 (お菓子)	道延分教会 (フルーツ)	和道分教会 (フランクフルト)
兵庫中央分教会 (ハンカチ)	大西脇分教会 (すのうぼうる)	神福分教会 (パン)
西脇分教会 (せんべい)	福重分教会 (お菓子)	日下分教会 (牛丼)
國延分教会 (炊き込みごはん)	大物部分教会 (カレーでお菓子Get?)	中河分教会 (わなげ)

高鹿喜分教会 (わた菓子)	貴船分教会 (いちご)
------------------	----------------



4月19日晴天のもと、婦人会総会がおちばで開催されました。宇仁からは新入会員2名を含む約24名の婦人会員が喜び勇んで参加致しました！午後からの支部の集いでは総会で聴かせて頂いたお話を元にねりあい、「互い立て合いを意識して通ろう」「やっぱりにをいがけ、おたすけよね」「親の声を素直に受けて、おちばへ一人でも多くの方をお連れしよう」「日々ありがたいの声をたくさん出していつも笑顔で過ごすこともよいにをいがけになるね」などの思いがあふれ、年祭活動への活力をいただきました。

天理教婦人会
第106回総会

教祖百四十年祭
おちば帰りの推奨 ～ちばの理を戴く～
おかえり講話
『水の心そのままに！』
講師 井筒 悟先生
黒石分教会長（津軽大教会）
ひのきしんスクール運営委員
教誨師
【日時】五月二十六日（日）
午後一時三〇分より
【場所】宇仁詰所大広間

「縦の伝道講習会」
去年より再開された「こどもおちばがえり」へ「全教会からの帰参を目指す」との打ち出しがありました。
募集に向けて動き出すこの時期に宇仁団としましても機運を高める一つの機会にしたいと思います。
講師 山澤 広次先生
少年会本部
デザインクリエイティブ室室長
【日時】五月二十四日（金）
宇仁大教会月次祭おつとめ後より
【場所】宇仁大教会

『教祖と歩む三年千日』
教会布教実働報告

◎中河合分教会会場

布教日 二月十五日

参加者 三名

会場 市内

内容 ポスティング

所感 住宅街を歩かせて頂いた。小さい子供を連れて歩いたが子供が率先してリーフレットを配ってくれ、こちらにも喜ばせて頂きながら周らせてもらえました。

◎久樹分教会

布教日 三月二十七日

参加者 二名

会場 北摂の田舎

内容 戸別訪問

ポスティング

所感 布教として歩かせて頂くことが出来ていませんでしたが今回久しぶりに昔を懐かしながら田舎の村を楽しく歩かせて頂く事が出来ました。これを機に田舎を散歩しながら戸別訪問に出かけさせて頂こうと思います。

『宇仁会報に見る大教会史』 第89回

⑥平成という時代

(2)

前回触れたように、平成七年に阪神淡路大震災や地下鉄サリン事件という未曾有の大惨事が起こり、日本の「安全神話」はもろくも崩れ去ってしまう。この年を境に、時代が変わったという社会学者が多数いる。その前年の平成六年の事を今書いている。思えば、昭和の名残りとともに、しばらく続いた最も平和な時代の最後の年だったのかもしれない…。

平成六年一月三十日、大教会布教部は創立百周年の勢いそのままに、「教組百年祭ようぼく躍進の集い、おぢば大会」を開催した。宇仁会報二百五十八号によると、この日は朝から雪に見舞われ、大型バス十台が各地を出発するも、なかなか予定時間通りには運行できなかつたようである。けれど徐々に天気回復し、晴れ間も見られるよ

うになり、無事に約五百名の宇仁に繋がるようぼくが北礼拝場に集結し、そのまま第三十八母屋大講堂へと移動した。

大会は大教会長挨拶に続き、本部員深谷忠政先生の『おつとめとおたすけとようぼくの成人』と題しての講演を拝聴、寺尾布教部長の挨拶で閉会した。この後、各地で開催される「ようぼく躍進の集い地方大会」へと移って行く。

余談になるが、各バスが「禁煙」であることをわざわざ呼びかけているところを見ると、どうやらこの頃から煙草の煙害がやかましく言われるようになってきたようである。ちなみに宇仁バスもこの年から「車内禁煙」になっている。

布教部では、さらに『つくるのではない。募集するのではない。御守護いただくのです。』をキャッチフレーズに、修養科生を大募集した。

おぢば通信

三月のうごき

◎別席の誓い

初席者 前之庄 一名
鍛冶屋 一名
神羽 一名
をびや許し 兵庫中央 一名

◎三月帰参者

二〇七名
(詰所調べ)

5月行事予定表

3月4日 合同お泊まり会
5日 青年会例会
9日 婦人会例会
15日 布教実働日
19日 少年会例会
24日 大教会月次祭

縦の伝道講習会
午前10時30分執行
神名流し
本部月次祭
午前9時執行

3月～6月 部内一斉巡教
午後1時30分
おかえり講話(宇仁詰所)

婦人会より

◇大教会炊事当番

4月 直 属
5月 神福B
6月 中河合
よろしく
お願いします